

牧師所感： 日本代表詩人逝去

— 谷川俊太郎氏を哀悼 —

筆者は詩（すべて）を詠む才能がない。だが他人の書いた詩を読むのは好きだ。筆者が韓国で牧師になっていない時（学生の時）、韓国で名の知れた詩人達（例えばソシヨンジュ「서정주」）の詩をよく読んでいた。

さて筆者が日本で牧師になって、日本人の詩人達が詠んだ詩を読むチャンスが訪れた。そのきっかけは朝日新聞を愛読するうち、谷川 俊太郎 氏の詩を読むことになった。以来 日本滞在 50 年間も絶えず 谷川 氏の詩を読む習慣となった。

ところで 筆者の友人の牧師 李 在雨 氏（山武市在住）が詩人で、よく詩を詠んで筆者を楽しませてくれたことも詩が好きな理由の一つである。詩人谷川氏は 1931 年生れで、筆者より一つ上の兄貴でもある。谷川 氏の詩は分かり易く、無頼漢な筆者にも訴えるところがある。氏は 2024 年 11 月 13 日に 亡くなられたが、亡くなられた後 11 月 17 日(日)の朝日新聞文化欄に、氏の遺稿が発表された。

ここに 氏の遺稿の詩を掲載して、氏の死を哀悼する。

どこから言葉が

谷川俊太郎



感謝

さようなら

目が覚める
庭の紅葉が見える
昨日を思い出す
まだ生きてるんだ

ほくもういかなきや
なんない
すぐいかなきや
なんない
どこへいくのか
わからないけど

（一部抜粋）

今日は昨日のつづき
だけでいいと思う
何かをする気はない
どこも痛くない
痒くもないのに感謝
いつたい誰に？

神に？
世界に？ 宇宙に？
分からないが
感謝の念だけは残る

たにかわ・しゅんたろう
1931年生まれ。52
年、第1詩集「二十億光年
の孤独」を発表。2020
年に刊行した詩集「ページ
ユ」が今月28日、新潮文
庫として発売される。

おわりに 氏は 幸せな人であった。筆者は今、体を病んでいるが、氏は「どこも痛くない痒くもない」と。幸せな人だったと思う。でも氏は感謝すべき神を知らない。残念である。